□□□□□□□□による歯面部位別歯垢内細菌の相対的定量解析 [最近のトピックス □□]

著者名 [□□ □□] 福田 敦史 □□□□ 弥奈
雑誌名 北海道医療大学歯学雑誌
巻 □□
号 □□
ページ □□
発行年 □□□□
URL http://id.nii.ac.jp/1145/00010082/
【最近のトピックス】

RT-PCRによる歯面部位別菌落内細菌の相対的定量解析

福田 敦史, 広瀬 弘奈

平成17年度の歯科疾患実態調査によると、う蝋歯罹患率には部位特異性があり、乳歯では上顎前歯群と下顎前歯群が高く、下顎前歯群が低いと、また永久歯では上顎第一大臼歯が高く、下顎前歯群が低いことがわかる。我々はこのような歯発生における部位特異性について、上下顎前臼歯群・頬側面側别（図1）に採取した部位別菌落の相対発発能を調べることで、その原因の一端を解明しようと研究を行っている。これまでに歯垢の緩衝能、pH、ミネラル（Ca, P）といったエナメル質の脱灰抑制や再石灰化に関与する要因について生化学的に分析を行ったところ、歯垢の緩衝能、pH、Ca、P濃度において、下顎前歯群舌側面が高く、上顎前歯群咀側面、下顎前歯群頬側面では低かったことが明らかとなった。今回は細菌学的観点から、上下顎前臼歯群・頬側面側別に採取した歯垢から、主な鰓歯発発力をStreptococcus mutansとStreptococcus sobrinusの相対比率について検討した。